

*タイトル 高山メモリーハウス 1945年。

*テーマ 高山が空襲に抗った備えた生活の様子を伝える。

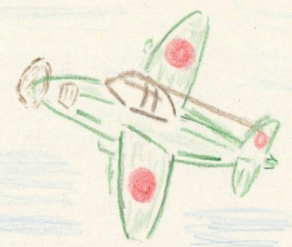
*提案理由 2020年は戦後75年、直に戦争を知り世代から話が聞ける限界が近いこと
思われ、そこで得た貴重な史実と当時已有的課題の建物に反映、歴史教材として活用できると考える。

*概要 防空管制下にあった高山の生活感を、内外共に建物全体で再現復元。

*建物選定 戦時中の建物の使われ方、古写真と記憶、資料点数の大小、展示レイアウト
などと総合的に判断。*全体的計画として、他物件とで転用可。

*作業のながれ

1. スタッフ集合と大枠、方針、スケジュールを説明、ミーティング。
2. 各自で事前勉強、戦争時経験者への質疑問答、ヒアリング。
近隣市民へ広く当時の資料、備品提供の協力を願う。
3. リサーチと協力願う方は、課題建物へ案内して現場を見ながら意見、史実を収集。
戦後世代の方から、伝聞から話や古写真をリサーチ。



*質問例

- シーズン別の衣食住生活スタイル変化。
- 戦前、中、後の衣食住生活スタイル比較。
- 代用品、代用食、今に活かせる生活、防災時の工夫
- 今伝えていること。
- 防空訓練、国防婦人、近所の用、憲兵、供出、隣組、配給、洗脳、回覧板
- 電灯黒幕、カーテン、カーン、飛散防止テープ、屋内外のカラーリング
- 被害状況、家計、買出し、疎開、しらみ、凶作、終戦、闇市、GHQ、復員など。

- 婦女子の苦勞、精神的、身体的苦痛、カハ、吹鳴
- 仕事、旧録、子供、生活の不便、息ぬえ
- 報道、高山線町の様子、自然災害

*作業のながれ

4. リサーチとヒアリング、精査、レイアウト、建物選定、他資料館と比較調査、7/16に決断。
 5. 建物各部屋は見取り図と確保して、上り、当時の生活感と知る展示スペースに転用。
- 例、朝ごはん食卓の様子、黒幕と黒い空襲警戒の様子、
- *戦時中と前後の時代比較、高山と都会との比較など工夫、表現をしよう。
6. 市、消防等の許可をとり、戦時中の高山を伝える資料館としてオープン。

*提案の効果

- 一般公開する事で、毎月観光客が来、衛生的に長く大切に保存できる。
- 定期的に「暮らしと食卓会」など衣食住を再現するイベントを行うことで、賑わい、発信拠点になる。
- 当時の建物と当時の様子と再現復元することで、視覚的に優れ、教材になる。

*課題

- 旧家での全体的バリアフリーは困難。コニテースペース確保などで理解を得る。
- 当時の立場による記憶、意見、考察に差異が潜むと思われ、差別的表現は映画のように、そのまゝ使用するのは注意が必要。
- 耐震、漏電、火災、破損、建物疲労に要注意。
- 見学者の安全、快適性を考え、空調、トイレ、手すり、滑り止めなどアレンジを最小限必要。

*経費予想

- 当時の姿に再現復元は、そのまゝの予算と覚悟。できる事は協力者で行う。
- 光熱費、水道、人件費、維持費、メンテナンスなど必要経費、入場無料を希望。
- 映画の誘致やマスコミに協力を願う。広告費を費用対効果のプラスを確保したい。

*展望

- 見取り図とレイアウトに余裕があれば、長尺を具えてゆかり建物内の生活感、質感、匂いを感じて欲しい。また認知症予防の回想法で活用を期待する。
- 市の催しや展示替と休館中に、建物本来の役割へ一時戻し人が寝泊りする簡易宿泊施設として利用。かまの家具と家の神様にと感謝をしよう。浴室は銭湯などで代用。
- 畳下、湿気除きの新聞紙に挟んで、ラミネート加工のメモシカドを収納。長く市民の心に残る絆を「高山メモリーハウス1945年」として育みたい。